

【教育目標 夢中になる とともに創る】



# きらきら



新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和6年9月12日発行

## 自分の力でやり遂げるうれしさ

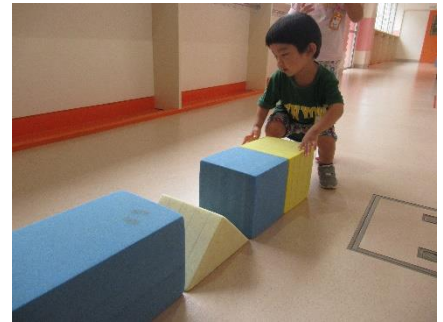
園長 青木博子

私は、日々目の前の子どもたちと先生方から教えられることばかりです。毎日の遊びは常につながっていて、その中で夢中で遊ぶ子どもたちは確実に成長し続けています。何気ない遊びが発展していく様子を見ていくと、そこには必ず先生方の考え抜かれた援助があります。子どもがやり始めたことを大切に受け止めること。子どもの「やりたい」「やり遂げたい」気持ちを大切にしながら見守り、その時その時を励まし認めていくことで、子どもの遊びが広がっていきます。その日々の遊びの中で、子どもは自分でできたという達成感を持ち、自信をもっていくのです。やってみたいということに自分から取り組み、自分でやり遂げて、自ら成長していくことを、私は毎日教えてもらっています。

今日は夏休み明けの年少組の子どもたちの様子をご紹介します。

### ～ 遊びの出発点 ～

年少組のAさんは、いつも部屋で積み木を重ねて乗り物を作り、遊んでいます。この日は、部屋の外に積み木を2つ出しました。その様子を見た担任の先生は「Aちゃん。長いバス、できそうだね」と言いました。するとAさんは、そのまま廊下で積み木をつないでいき、「給食の先生（のお部屋の入口）に届く長いのができるね」と言いました。



さらに担任の先生が「長いバスになったね」と言うと、Aさんは「これは道にもなるよ」と言って、積み木をもってきては置いてぴったりとつなげていきました。あった積み木を全部使い切ると別のお部屋にある積み木を見つけて「これも使っていい？これも使えば（給食室の前まで）行けるよ」と言いました。給食室の入口まであと1mほどのところでその積み木も使い切りました。担任の先生は「給食室までつなげたいのか、それとも、素材を全部使い切って満足したのか」と考えます。そこで「これも使ってみる？」と部屋にあった段ボール片を提示しました。それはこれまでも使っていて慣れ親しんだ素材です。Aさんは見たとたん、急いでそれを手にして使いました。そして「まだだ」とつぶやき、部屋に戻ると連結牛乳パックを手にしてさらにつなげたのです。道が給食室に届いたとき、「できた！」とAさんは歓声を上げました。そして「上を歩くのが楽しくなった」と笑顔で、その上を歩き始めました。自分がイメージしたことが実現できた満足感を味わっていました。

### ～ 発展していく遊び ～

数日後、別な子どもがその遊びを思い出し、積み木を廊下に並べ始めました。



いつの間にか、年少組全員の子どもが廊下に出てきて、積み木を並べていきました。積み木を使い果たすと、連結牛乳パックやウレタンマットなど使えるものをすべて使って、長い道をみんなで作り上げたのです。子どもたちは長い道を渡ることを楽しんでいました。Aさんは、積み木の上を歩きながら、よく見て、ずれている積み木をもとに戻したり、ぴったりつなげたりしながらゴールまで渡っていきました。

#### ～ 子どもたちが作り上げた難関 ～

廊下の端から反対側の端までつながった長い長い道。その道は、平らではありません。三角柱や円柱など積み木の大きさや形が違いますから、階段のようになっているところや、坂になっているところもあります。橋のようになっているところや、尖っているところもあります。その長い道の上を、足元を見つめながら、子どもたちはそおっと渡り始めました。そこは、高低があったり細い場所があったりするので、体がふらついてバランスがとりにくい場所が何か所もあります。



#### ～ 達成感と自信 ～

そのうち何人かの子どもが、教師の手を取り、手をつないで渡り始めました。Bさんは私と手をつないで、渡り始めました。道の上を渡るのが楽しくてうれしくて、一步一步進めていきます。時折バランスを崩しそうになると、つないだ手にギュッと力を込めて、バランスを取ります。長い道をゴールできたとき、笑顔で「もう一回行こう！」と私に伝え、もう一度スタートから手をつないで、歩き始めました。長い道の半分まで行ったとき、Bさんが「手を放して」と言いました。手を離すと、残りの半分は一人で渡り切りました。ゴールしたとき、さらに満面の笑顔があふれました。そして、「もう一回行こう！」と言いました。手をつないでスタートしましたが、すぐに、「ここは（渡るのが）難しいけど、一人でやる」と言い、それから最後まで一人で渡り切りました。そして、私にこう言いました。「もう、手をつながなくてもいいよ」。

それから、一人で長い道を渡り切ったのです。ゴールした時のBさんの歓声。満面の笑顔と誇らしそうな表情。達成感をもち、自信にあふれていました。ゴールには先生たちが待っていました。「すごーい！」と先生たちから褒めてもらい、うれしさを分かち合いました。周りの子どもたちも自分のことのように一緒ににこにこしています。

夏休みが明け、3歳児、満3歳児の子どもたちは、より一層一人一人が、生活において自分でやってみようとする姿や、やりたい遊びを見つけて遊びだす姿が見られるようになってきました。担任の先生に見守られながら「自分でやる！」「一人でできたよ！」「お友達と一緒にうれしい。楽しい」という気持ちにあふれています。

